働くものこそ眞の文学を

明平さんを囲む文化活動者座談会

「細胞生活」「台風驟動記」「町会議員一年生」など明るくユーモラスな作風で壌近ジャーナリズムにのしあがつた特異な風格をもつた作家杉浦明平氏が、今回炭労の文学講師として下部各地を巡回し三池には二十九日に月刊炭労編集者向井氏とともに来訪した。三鉱労組教宣部ではこの機に各支部の文化サークル、文学、機関紙関係等廿名余の活動家をあつめ「明平さんを囲む座談会」を催し有意義な一夕をおくつた。以下はその要約である。

書くことで自己発見

A　先ず先生の作品を中心に話を進めて頂きましようか。

杉浦　本は沢山出したようだが、まだ私の年令には及ばない程度で、作家として知られたのは、町会議員一年生、細胞生活、それに映画になつた台風驟動記などが出てからです。戦後田舎に引きこもつて政治活動しながらボス相手に喧嘩した話などを主に扱つたのですが、ほとんど実名で書いています。私の親父がボスで、私の喧嘩相手は父の仲間というわけです。

親父は道楽に庭石いじりや、鶯飼いをやつていたが、親父の鶯はケキョとしか鳴かぬので「ホ抜けの鶯」だと随筆で書いたことがあり、親父は「俺のことさえ悪口書く奴だから、まあこらえてくれ」と仲間に云つていました。

ボスは妾を囲つたりなんか私行はめちやめちやで、それを小説に書く場合は匂わせる程度に書くわけですが、本名で書くんだから町では大へん読まれ、ボスも調査した上で書いたことだからあきらめて下手に出て「明平さんも東京に出れば、もう一流の作家だから東京に行つたらどうか」とおだてたりしているんです。

作家として名が出ると、おせつかいな人もでてきて、こんな話を書いたらどうか—といつてくるんです。例えば、町が集つて市政を布くのだが、それには県の方で検査にくる、それで必要でない看板をたくさん掲げたり中高校生を狩りだして、やたらに街を歩かせて、賑やかなように見せかける—と云うんですなそんな素材はユーモア小説になら書けるが、私のルポルタージュには無理です。私の場合は作品に書いてない部分がたくさんあつて、その中から書いてゆくのですからね—。

私の作品のことはそれ位にして—野間君も生活記録を懸命にやつていますが、私も昔は文学青年で大学の文学部にいて、一年に二、三時間しか学校にゆかずあとは下宿にごろごろしていて「日本の文学はつまらぬ、もつと新しい面白い文学をやらねば—」と自負していたが、現在あるものをつまらぬとは思いながら自分では何を書いてよいかわからないのです。そのころは本当の生活を持つてなかつたのですからね。

小説が書けぬことが小説になるような日本の私小説が国民に面白がられぬのは当然で、自分の動きの一つ一つが社会と繋がる生活であれば、いいのが書ける

労働者の明るい面にも目を

もう一つ、リアリズムの問題ですが、今までの描き方には間違いがあると思つているんです。映画でも小説でも、労働者の生活を描いたものは、ツルハシと焼酎の暗い面ばかりが強調されてうんざりするが、炭鉱でも現在では機械化等も進み、戦前のような暗さはない筈で、ストでもクビ切等の悲惨面だけではなく、敗けても屈せずたちあがる明るい気慨があるのではないかと思うんです。リアルー真実な作品を書くには本当の生活を知らぬのではだめで、国民の生活感情、意志を体感していなくては描けぬ筈です。

もう一つ、映画でも東映など娯楽映画を頭から否定するのは考えもので、大衆文学でも中里介山の大菩薩峠など、はじめの方は芥川の歴史小説などよりずつといい。芥川のは頭の中の作品だが大菩薩峠は中里介山のプルジョアと相容れぬひねくれがで

大いに語る作家杉浦明平氏

筈ですがね。それで従前の日本文学を否定、国民生活に触れたものが書きたいが、私達の生活はその機会が少かつたのです。自分で自分の生活を見直して書くと自分がはつきりしてくる。思想は言葉と云われており、書けもせず、云えもしなかつたことは本当には感じてなかつたことになるわけで、書けばそれがはつきりしてくる。記録することで価値が発見できるし、無意味さ、無意味でなさが判り、大衆小説などのつまらなさも判るわけです。だから生活記録をやつていると作家にはなれなくとも、文学の必要性がわかるわけです。

サークル伸び悩みの原因は

杉浦　最近は地方を巡つて見ても文学や作家の話よりも、サークル の行き悩みが問題になつているようですがねー。

B　私達の場合はサークルの活動家が組合運動の仕事を持つているのが多くて、資金の問題より暇の問題で行き詰つたんです。

A　組合運動と雑誌の仕事をやつていれば手一ぱいで、下部との意志の疎通もうまくゆかなかつたー

杉浦　他では書き手が足りぬーという悩みが多いですがね。

B　「つどい」（自労機関誌）はうまく続いているがー

C　書き手が固定する傾向があるんです。

D　地域では読者の声が機関紙に出てきた傾向はあるが、原稿は集まらんですな。

杉浦　戦後の新聞では投書が大きく扱われる傾向が顕著だが、それも固定していますね。

逆の要素をもつている特殊なものはいい。

映画を見て大衆は何故書ぶか、映画を自由につかつて大衆をかきたてる要素、力をしつていて映画を作る技術等も評価し直す必要も感じているんですがね。

「みいけ」に望むもの

D　真珠会のことを機関紙に書いたものに、消費主義的な人がいると書いてあつたが、そんな風に書かれたら、そのへばやめてしまうんじやないかと思うな。

執行部　アンケートにあつたのをそのままのせたんですが、私たちもこの問題は考えてみるつもりです。

I　「みいけ」の入選作品だが、従前は同人雑誌の小説的なものが多かつたが、最近のは明るく感じのいい作品が見受けられ書機関紙の投書では、投書しても迷惑がかからぬ条件もだし、出向いて書いたり誘導したりすることも必要でしよう。

B　原稿を頼むのも地域ならいいが、執行部に行つてはだめだな書く暇もないし、書ける人が少い。

杉浦　しやべらして書くか、方言のまま書かせる。投書も生活記録もその方がいい。

E　おしやべりはするが、正式の会議では発言せぬ人が多いですね。

向井　そのすくい残した部分をまとめてサークルを作るという考えはどうですかね。

G　おしやべりは責任がないが、会議の発言では責任をもたねばならぬからでしようね。

H　サークルの目的はバラバラの個人を進歩的な方向に組織してゆくことにあると思うがー

そうしたら文学的なものだけでなく、子供を守る会とか、生活を高める会とか、直接生活に結びついた色々な会があつた方がいいではないでしようか。

杉浦　同感ですね。しかし進歩的とか何とか固定して考えると窮屈になりはしないですか。

D　サークルが進歩しないのは組合執行部の指導方針にも欠陥があると思うがー

I　サークルは組合員の憩いの場所にしたらと私は思いますがね組合では初めから組合協力という結論を前提に持つていて、歌う会などすぐ使える部門からだけ手をかけているが、どうせ結論は組合の考えと背反はしないんだから、あせらずに憩いの場所としてやつてもらつたらーと思うんです。

文化行事などには会社側も金をだしているから、どつちが先か出方を待つているようでは困るんですよ。

杉浦　執行委員が組合の代表でなく、個人でサークルに参加してやることは出来ないのですか。

I　今の執行部では忙しくて組合運動だけで手一ぱいでしよう。サークルが成長しない理由には文化的センスのない執行委員が文化面に口をだすからーということも考えられるようです。

大衆への信頼

ものを書く心構えはー

杉浦　私は陽気で楽天家で泣くのがきらいでしてね、最近とくにその傾向が強いようです。何でもやつていれば何とかなると思うんですね。心構えといつても別にないですが、人生は愉快に楽しく生きるべきだと思つているし、とくに私は大衆をいつも信頼しているんです。大衆はなかなかついて来ないが、話せば判る。町会でもボスとの闘いでは嫌になることが多いが、大衆と接することで救われている気持です。大衆への信頼がなければ私は安心して居れぬ。そんなあり方が私の作品活動の基盤になつているようですね。

K　日本文学の傾向についてお話願えませんか。

自分で見つけさせる

今井監督の偉さの秘密

杉浦　では最後に締めくくりの意味で一言。先般今井正監督の撮影を見にいつて感じたことですが、人間の指導はああやらねばならぬとつくづく思つたんです

H　月刊炭労について少しー

今年の入選作も昨年の作品も創作など立派なものと思いましたカットもよく使われ、表紙など

杉浦　後になれば現在の傾向が判るが、今ではね。しかし新日本文学にも明らかに二つの流れがあるように、日本文学にも若い世代とそうでない世代の二つの方向があるようです。

月刊炭労への協力を

J　先生の作品はユーモアと社会性があつて愛読しましたが、執筆の心構えなんかー

I　サークルが組合員の憩いの場所にしたらと私は思いますがね組合では初めから組合協力という結論を前提に持つていて、歌う会などすぐ使える部門からだけ手をかけているが、どうせ結論は組合の考えと背反はしないんだから、あせらずに憩いの場

D　サークルが進歩しないのは組合執行部の指導方針にも欠陥があると思うがー

杉浦　同感ですね。しかし進歩的とか何とか固定して考えると窮屈になりはしないですか。

B　原稿を頼むのも地域ならいいが、執行部に行つてはだめだな書く暇もないし、書ける人が少い。

D　真珠会のことを機関紙に書いたものに、消費主義的な人がいると書いてあつたが、そんな風に書かれたら、そのへばやめてしまうんじやないかと思うな。

執行部　アンケートにあつたのをそのままのせたんですが、私たちもこの問題は考えてみるつもりです。

I　「みいけ」の入選作品だが、従前は同人雑誌の小説的なものが多かつたが、最近のは明るく感じのいい作品が見受けられ書

B　「みいけ」を大版四頁にしたらと思うが、印刷工場の能力はどうですか。

執行部　能力は十分あります。

E　福利厚生などの堅い長い記事は別に伝単か何かで出すことにして、地域の記事などをもつと多く出してもらつたらと思います。

J　先生の作品はユーモアと社会性があつて愛読しましたが、執筆の心構えなんかー

I　サークルが組合員の憩いの場所にしたらと私は思いますがね組合では初めから組合協力という結論を前提に持つていて、歌う会などすぐ使える部門からだけ手をかけているが、どうせ結論は組合の考えと背反はしないんだから、あせらずに憩いの場

杉浦　私は陽気で楽天家で泣くのがきらいでしてね、最近とくにその傾向が強いようです。何でもやつていれば何とかなると思うんですね。心構えといつても別にないですが、人生は愉快に楽しく生きるべきだと思つているし、とくに私は大衆をいつも信頼しているんです。大衆はなかなかついて来ないが、話せば判る。町会でもボスとの闘いでは嫌になることが多いが、大衆と接することで救われている気持です。大衆への信頼がなければ私は安心して居れぬ。そんなあり方が私の作品活動の基盤になつているようですね。

K　日本文学の傾向についてお話願えませんか。

囲碁教室 (41)

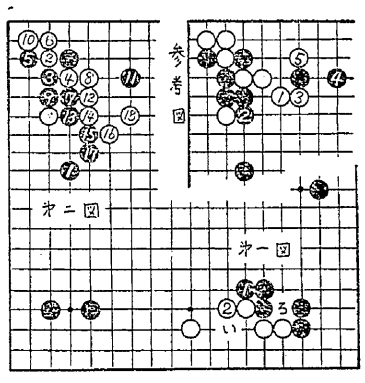
五線押すべからず

前回三線と二線の交換について、三線を押されて、二線をはうのは、不利であると述べましたが、さて五線を押して四線をノバせるのは、五線を押した事により得られる外勢に比し、四線で囲つた相手の実利がいかにも大きく余程特殊な場合でないと不利です。

第一図　ツケノビ定石に出てくる形ですが、黒1と打ち白2と交換する事は五線を押した事になり損な手です。更に本図の場合は将来「い」の打込みを失い、又白から「ろ」の出切り（37回参照）の味を生じる等黒1の罪は少くありません。

第三図　これは一頃よく打たれた大ケイマカカリを黒1とハサみ白2と三々にツケから生じる定石です。白10までとなつた時黒11の手を味わつて下さい。11の手で平凡に12の点に打つのは五線を押す事になり無策をまぬかれません。11と打つて逆に白に五線を押させる手を誘いました。

なお、白12もこう打たずに参考図の如く1とコスミ以下5までと打つ方が黒に調子を与えないだけ良いとされています。



宮浦俳句会

宮浦俳句会は一月二十八日午後二時より「勝立東谷社宅を吟行」鬼塚忠美氏方において披講した。当日の主な句は次の通り。

雉鳴の近づいて来し峠道　角　麿子

畑を打つ露頭の石炭のまぜりたる　荒金　久平

押車押し寒田の坑夫かな　鬼塚　忠美

エプロンの小銭ならして麦を踏む　高田　青山

下崩や犬じやれてゐり脚けてをり　坂元　朴童

みの虫に口ふさがれて狸掘　加藤　香月

ひばり鳴きからすがないて山笑ふ　中川　ギ丈

狸掘り坑より流れセリの水　田中　茂泰

蕨刈の鎌のきらめく寳の中　山本　竜夫

蕨の坑夫小屋あり狸掘　井上　蘇柳

川柳

＝議　場＝

名議長あれだけもめた議事まとめ

議場騒然副議長の智慮も借り

ネクずらり締めて本部の執行部

すらすらと済んだ日議長物足らず

傍聴者の行儀を議長たしなめる

つつかれて議長おさえる腹の虫

ラーメンが恋しい議場よう冷える

組合の朝が始まる労働歌

（三川電気　宮崎天馬）

長屋太郎記

が夏ミカンの皮をむきながら、亭主が帰つてきて「いやな噂をきいたが、わしはお前を信用している」という言葉をじつときいている場面があるが、私が九時ごろ来て見て、一巡してきて昼ごろまた来たときも同じ所をやつていて、一箱準備していた夏ミカンが皮をむかないのは無くつてしまつているんですよ。雪代も二、三言いう場面があるが、もう一ぺん、もう一ぺんで二、三日かかり、その日も午後は他の俳優は全部帰してしまい今井監督と力メラマンと雪代と三人でダメを繰返し、四日目にやつとパスしたそうです。

今井は絶対にこうしろとはいわず、情況説明して、その場合、どんな表情をすべきかを女優に考えさせる。そうして夜は十一時までやつているが、それが本当の指導者で、下手でもそれで自分がでてくる、その者になり切ることを発見し、一度で成長する。女優たちが今井につきたがるのもなるほどと思つたですね。

純愛物語でも今井独得のしみ通るような味わいがあるが、あの映画で今井は主演女優をもて余したそうだが、それでもとことんまでねばつて自分を発見させたのであれ程の映画になつたのでしよう。

黒沢はおしつけるが、今井は一口もこうやれといわぬことに私は感心した。創作も文化運動もあせるよ、そうせよでなく、それぞれにそのやり方を見つけさせるのが本道ではないかと思うのです。